



もう一度、
行ってみたい、
会いに行きたい



クライアントに愛される 私の街のセラピストたち

セラピストの資格を取得し、施術をした経験を持つ人の数は、ここ2～3年で急激に増えています。

セラピストの数が増えるということは、サロンやスパの数も必然的に増えておりその結果、クライアントにとってはお気に入りのサロンを見つけやすい状況になっていると思われがちです。

ところが、また来てみたいと思いたくなるサロンは、単純にサロンの増加数とは比例していないようです。つまりサロンの質、否、セラピストの質が、人数の割りには、それほど高くないといえるのかもしれませんが。

もう一度、行ってみたいと思われるサロン、会いにいきたいと思われるセラピストとクライアントが黙って去ってしまうサロンやセラピストとの差は、いったい何なのでしょう？

その謎を探るべく、二人のセラピストを訪ねました――。

取材・文・本誌編集部



セラピストの本来の姿を 教えてくれた先生との 出会いに感謝して

余湖美香さんは、現在、愛知県額田郡にある二つの旅館のそれぞれに併設されたサロンにセラピストを派遣し、自らもトリートメントを行っています。そして自身で立ち上げた、完全プライベート型サロン「アンモイゼ」を、豊橋市内で営んでいます。

アロマセラピストとしてのキャリアをスタートさせてから約5年が経ちました。かつては、オーバークワークになるほど働き、学ぶ日々でした。ところが、アロマセラピーで一生、生活していかなければなら

ないという気負いもあって、ソフト面よりもハードの強化に比重を置いてしまったといいます。その結果、一時は4つのサロンを持つことになったのですが、一方で人間関係に悩まされ、ハードワークと睡眠不足による体調不良に苦しむことになったのです。

「あの頃は、本当に疲れていました。大好きな植物もみんな枯れてしまい、このままで本当にクライアントを癒すことなど出来るのだろうかと思いつきました。そこで原点にかえってアロマセラピーをもう一度しっかり勉強してみたいと思い、雑誌に載っていたアイネス・ジャパニーズ・カレッジ・オブ・アロマセラピー（以下、アイネス）に電話をしました」
アイネスとは、名古屋市にある英国IFA認定校で、代表である服部智子さんと、その娘である真由

美さんが講師兼セラピストとして活躍しています。余湖さんは、このとき電話口に出た智子さんの優しい声にとっても癒され、すぐに会ってみたいと思ったそうです。資格を取ることや知識を学ぶということよりも、その声と言葉に心を動かされました。決して作られたものではない優しい心に、セラピストが持つべき本来の姿を感じることができたのです。

「学校に通いはじめたのですが、授業はともわかりやすかったです。それに加えて、先生はいつも、これ飲んで、とハーブティをブレンドしてくれたり、お土産を持たせてくれました。ある時、腹痛がとて辛くて、実技の授業を続けられませんでした。その時、真由美先生がトリートメントをしてくださったんです。施術を受けて、もちろん勉強にもなりませんが、痛みも全く消え、元気になったことが今でも忘れられません」

余湖さんが語る言葉からは、ただ知識を得るだけが学校ではないということが、伝わってきます。服部智子さんは言います。

「美容院で頭に触れられているとき、美容師さんが他のことを考えながらやっているのか、一生懸命やってくれているのかは、言葉に出さなくても分かりますよね？ 短い時間ですけど、相手には伝わってしまうんです。上手下手ではなく、相手のことを大切に考えているのかどうか、これが基本なんです」と、授業では言うんです。

知識や技術だけではなく、人に接することとはどういうことなのかを自然に学ぶことができたことで、セラピストのあるべき姿を知った余湖さん。その気持ちを中心に抱き、現在、隠れ家的サロン「アンモイゼ」を中心に、ゆとりのある生活サイクルの中で、じっくりとクライアントを癒しつづけています。



アロマセラピーサロン・アンモイゼ 余湖美香さん

TEL ●0532-66-4945

URL ●<http://www6.plala.or.jp/un-moise>

—お客様の思い出に残る一言は何ですか？

「転勤先でストレスに悩まされている方から、
「豊崎に帰ってトリートメントを受けたいです。
そうすれば、どれだけ癒されることか」
とメールが来ました。
「ぜひ、夏休みに帰ってきてくださいね」
と返信しました」



余湖さんは、以前、インテリアの勉強もしていました。トリートメントルームの一角には、植物や人形が可愛らしく飾られています。一見、このお人形は何だろう？と思ってしまうのですが、そこには、人を大切にする余湖さんらしいこだわりの風景が、演出されていたのです。

「お客様の土産が多いんです。旅行先で買ってきて頂いたものは、必ず飾るようにしています」

「自らも旅行が大好きだという余湖さんの旅は、研修や勉強を兼ねることも多いのですが、今年も上半期だけで3度、足を運んでいます。そしてその地で買ってきたお土産を、お客様にギフトとしてさしあげることも忘れません。こうした気配りが、あくまでも自然にできることも、また会いたいと思う魅力あるセラピストの条件なのかもしれません。」

最後に月に1〜2度のペースで、余湖さんの施術を受けにくるクライアントさんに、彼女の印象をうかがってみました。

「実は私、凄く人見知りなんです、でも、余湖さんはとても話しやすく、すぐに緊張が解けました。施術を受けていつも感じるのは、タオルのかけ方、触れ方など、一つひとつの動作を通じて、とても大事にされていて嬉しいなあということです。あまり話をしたくない日もあるんですが、そういうときも気を遣ってくれます。」

「体ももちろんスッキリするんですが、それだけでなく、心の疲れが取れるんです。仕事のストレスって、普通はなかなか発散できないんですが、特別な時間を作って、ご褒美を与えてくれて、気持ちもスッキリするので、こちらにきて良かったなあ、いつも思っています」